自衛隊の現場

対馬（長崎県）
対馬曹友会みかん狩り大会 秋晴れの中43家族96人が参加

陸上自衛隊対馬駐屯地曹友会（会長・大久保実陸曹長）は11月3日、対馬市にある小森農園で、みかん狩り大会を行いました。

これは、隊員とその家族の融和団結を図り、秋の楽しい思い出を作ることを目的として行われ、3年連続の催しとなり、秋の恒例行事となりつつあります。

全員で集合写真

当日は、秋晴れに恵まれ、絶好のみかん狩り日和となり、43家族96人が参加しました。

初めに園長から、みかんを狩るハサミの使い方や「木によって味が違うので、食べながら美味しいみかんの木を見つけてください」などの説明を受け開始されました。約2時間のみかん狩りでしたが、全員で250kgものみかんを収穫することができました。

今年3月対馬に転任し初めて参加した女性隊員は「まず、対馬駐屯地曹友会は以前いた駐屯地に比べ、活動の多さに驚きました。私は隊員なので、今日参加しているお父さんたちとは会話をしたことがありましたが、多くのお母さんたちと初めて会話を交わし、たくさんのママ友ができました。子供も、みかん狩りを初めて体験し、多くの友達ができ、さらには、対馬駐屯地曹友会恒例のじゃんけん大会で大興奮でした。来年もぜひ参加したい」と、とても楽しそうに話してくれました。

対馬駐屯地曹友会は、夏にはブルーベリー狩り、秋にはみかん狩りを計画し、回を重ねる度に、多くの隊員家族に参加いただいています。

みかん畑を楽しそうに走り回る子供たちや、それを見つめる親御さんが、とても楽しそうにしている姿を見ていると、曹友会長として本当に幸せを感じました。

古河（茨城県）
東ティモール国防軍の能力構築支援 実践的な交通作業の教育を実施

実践的な教育を実施

陸上自衛隊第1施設団（団長・安田百年陸将補）は8月22日から9月30日までの間、東ティモール民主共和国での能力構築支援に、特殊器材中隊長（古賀3等陸佐）以下8人の要員を派遣しました。

この事業は、東ティモール国防軍の能力向上を図るとともに、豪州、米国、ニュージーランドとも連携を図りつつ、多国間での信頼関係を築くことを目的として、平成27年度から継続的に実施されており、施設団としての派遣は、初回の平成30年から5回目の派遣になります。

今年度担任した第101施設器材隊は、担任する交通作業（道路や橋の整備）を教育するにあたり、過去の教訓を踏まえた準備訓練を国内で計画的に行いました。また、派遣間は現地で東ティモール国防軍に第1施設団の施設技術がしっかりと根付くよう被教育者に寄り添いつつ実習を主体とした実践的な教育を実施しました。

派遣隊員は、日本とは異なった生活環境の中ですが、国の代表である意識を強く持ち、東ティモール国防軍隊員の能力向上と本事業に参加した関係各国の友好と信頼の醸成に大いに寄与し、約1カ月以上にわたる任務を終え、無事に帰国しました。

帯広（北海道）
国内最大級の日米共同実動訓練 ORIENT SHIELD 23

負傷者の後送共同訓練

第4普通科連隊（連隊長・南條衛1等陸佐）は9月14日から24日までの間、上富良野演習場で米陸軍との実動訓練「ORIENT SHIELD 23」に参加し、米陸軍5―20歩兵大隊（大隊総員500人以上参加）と陸上共同訓練を実施しました。

この訓練は、米陸軍との共同作戦における連携要領を実行動により演練し、共同対処能力の向上を図るとともに、島嶼における防御要領として「バトルセンサーを活用した自律分散型防御」と「米陸軍と共同で実施する陣地防御」の連接について検証し、強靱性の向上を図ることを目的に行われました。

訓練開始式では、連隊長要望事項として「情熱をもってお互い学べ」「安全管理の徹底」の2点を、また、5―20大隊長は「この訓練に参加する全員が協力し訓練に励み、そしてわれわれの祖国がいついかなる脅威に面しても対応できる態勢をとるために全力を尽くすこと」を訓示として述べ、共同訓練が開始されました。

訓練期間中、前段に機能別訓練、後段に総合訓練（FTX）と区分して実施しました。

機能別訓練では、日米共同での各種射撃訓練、バトラー訓練や築城訓練、ヘリコプターを使用した小部隊ヘリボーン訓練や物資などを吊り下げて輸送するスリングロード訓練など、さまざまな訓練を実施し、お互いの知識・技能を共有するとともに理解を深めることができました。

FTXでは、防御における2夜3日にわたる状況下での訓練を実施し、各中隊および配属協同部隊は、隊員1人1人が任務を理解し、部隊間および米陸軍と連携しつつ、与えられた任務を完遂しました。

最終日の24日に行った訓練終了式で、連隊長は「各隊員は、環境や疲労に負けず妥協することなく、やるべきことを徹底して実施し任務を完遂した。部隊練度についても、この数日間で格段に成長し、今回の訓練で得た教訓などを今後もブラッシュアップして、さらなる成長を図る必要がある」と述べるとともに「本訓練を通じて築いた最強のタッグチームとしての絆を今後も大切にし、お互いが世界の侮れない部隊として存在し続けよう」と訓示し、11日間の共同訓練を締めくくりました。

百里（茨城県）
茨城空港「空の日」イベント2023に参加 航空自衛隊および百里基地の魅力を伝える

航空自衛隊百里基地（司令・松浦知寛空将補）は10月2日、茨城空港で開催された百里飛行場（茨城空港）利用者利便向上協議会が主催する「茨城空港『空の日』イベント2023」に参加しました。

茨城空港エプロンに展示

空港内の基地広報ブースでは、パンフレットなどの配布および子供制服の試着撮影を行い、茨城空港エプロンでは、F―2戦闘機、UH―60J救難機、U―125A救難捜索機および消防小隊の破壊機救難消防車を展示しました。

装備品を前に記念撮影などを楽しみ、また、近い距離で装備品を見ることができ大好評でした。

今回のイベントに参加し、航空自衛隊および百里基地の魅力を伝えることができました。

都城（宮崎県）
フィリピン陸軍に対する能力構築支援 同軍の災害対処能力の向上を図るため

第43普通科連隊（連隊長・谷雅和1等陸佐）は、10月22日から28日までの間、フィリピン共和国に本部管理中隊の隊員（中隊長・松崎1尉以下10人）を派遣し、比陸軍第525戦闘工兵大隊に対する能力構築支援を実施しました。

この事業は、比陸軍に対して同軍の災害対処能力の向上を図るため、人道支援・災害救援活動分野に係る能力構築支援を実施し、2国間の戦略的パートナーシップの関係強化および自由で開かれたインド太平洋戦略の維持・強化に寄与することを目的としています。

東日本大震災や熊本地震の災害対処教訓事項の情報提供・津波を想定した海難救助訓練・人命救助システム取り扱い要領の教育を実施しました。

パドル操作要領の展示

派遣隊員たちは、経験に基づく具体的な教育を行ったほか、陸軍博物館・フィリピン火山地震研究所・国立博物館を研修して比国の歴史や文化に触れ、同国に対する理解を深めました。

また、食文化交流や積極的なコミュニケーションを通じて相互理解を深め、友好関係を構築するなど、無事に任務を完遂し帰国しました。

那覇（沖縄県）
隊員家族に対し生涯生活設計セミナーを開催 福利厚生の充実を図り隊員と家族を支援

生活設計セミナーの風景

那覇駐屯地業務隊（隊長・後藤茂寿1等陸佐）厚生科は11月1日、国設賀数（かず）宿舎集会場で、隊員家族を対象に生涯生活設計セミナーを開催しました。

このセミナーは隊員家族の各種福利制度の理解促進を図り、今後の人生設計の資としていただくのが目的です。

子供連れでも参加できるよう、会場の隣に乳幼児にも対応した子供預かりスペースを設置し、環境を整えたこともあり、賀数・阿波根宿舎の隊員家族および近隣の隊員家族17人（子供11人）が参加しました。

厚生科長（蛯原事務官）のあいさつ、共済班長（宮原事務官）による防衛省共済セミナー、ジブラルタ生命株式会社によるライフプランセミナーや隊が保有する厚生物品（貸出用）の展示説明を実施しました。

共済班長による貯金業務、団体保険などの共済事業から沖縄独自の福利厚生紹介など生活に密着したサービスメニューの紹介に、参加者からは「具体的な割引例があり、わかりやすかった」「セミナーの回数を増やしてほしい」「家族が主人の共済をどこまで利用できるか」など、多くの質問が寄せられました。

引き続き行われたジブラルタ生命保険株式会社によるライフプランや資産運用のセミナーでは「子供がいるのでこのような時間をとるのが難しかったので、考えること、知ることができ助かりました」「iDeCoなどの知らないことや言葉に馴染がなかったので勉強になった」などの感想がありました。

大津（滋賀県）
滋賀県総合防災訓練に参加 各防災関連機関と連携し共同要領を確認

要救助者の救出訓練

大津駐屯地（駐屯地司令・野崎英二1等陸佐）は10月15日、陸上自衛隊滋賀里訓練場および大津市生涯学習センターで行われた「滋賀県総合防災訓練」に参加しました。

琵琶湖西岸断層帯を震源とする大規模地震が発生し、大津市で震度6強を観測、建物の倒壊、火災の発生、液状化の発生、ガス・水道・電気・電話などライフライン施設、鉄道、道路、堤防の破損が発生し、多数の死傷者・安否不明者が発生したとの想定の下、訓練が開始されました。

訓練場所の滋賀里訓練場には土砂災害による埋没家屋と複数の車両が準備され、訓練は、ドローンでの偵察から始まり各防災関係機関と現地調整による任務分担を実施後、第4陸曹教育隊派遣班は第3偵察戦闘大隊（今津駐屯地）と連携して埋没家屋から要救助者を救出し、消防が開設した応急救護所に負傷者を搬送しました。

また、生涯学習センターでは大津市赤十字奉仕団とともに災害時の炊き出しを実施し、災害時の共同要領を確認しました。

大津駐屯地は、各防災関係機関および地域住民などとの関係を強固にし、災害時に連携して迅速かつ的確に対応できるように今後も取り組んでいきます。

横須賀（神奈川県）
全日本マスターズ選手権で団体総合第9位 海上自衛隊で唯一の現役体操選手

平行棒競技をする髙橋1尉

9月17日に行われた「第56回全日本マスターズ体操競技選手権大会」で、海上自衛隊海上システム開発隊髙橋元気1等海尉が所属するチーム「ちくだいKIP」が団体総合第9位を獲得しました。

全日本マスターズ選手権は全国から集結した18歳から76歳までの男女選手が団体および個人総合入賞を目指し競技する大会であり、今回過去最大484人の出場者数となりました。男子は46団体出場しており、団体戦初出場ながら9位を獲得したことは大きな成果です。

髙橋1尉は平成18年に第16期一般曹候補士（現曹候補生）として入隊し、24年に部内幹部となり、現在は横須賀で勤務しています。

高校入学時から器械体操を始め、入隊後、防衛大学校体操競技部の部外指導者として学生に体操を教えながら自身も競技を続け、昨年の横須賀市民大会で個人総合第2位を獲得するなど、積極的に活動を継続している海上自衛隊で唯一の現役体操選手です。

昨年まで個人として活動していた髙橋1尉は、YouTubeチャンネルを通して、北海道帯広地区を拠点として活動する一般社団法人「ちくだいKIP」のメンバーとして団体戦に出場しました。

髙橋1尉は「今回、声をかけていただき、団体戦に出場できたことは大変貴重な経験となりました。チームメイトをはじめ、応援においでいただいた皆さま、そして競技生活を支えてくれた家族には感謝しております。常に感謝の気持ちを忘れず、前向きに進んでいくことで必ず目標は達成できると考えます」と次年度のさらなる躍進に向けて強い意志を示してます。

名寄（北海道）
小学校で「1日防災学校」に協力 学生の防災意識の向上に寄与

名寄駐屯地（司令・藤田明大1等陸佐）は10月27日、オホーツク海に面し、白鳥が飛来するクッチャロ湖で有名な北海道浜頓別町の町立浜頓別小学校で実施された「1日防災学校」に協力しました。

この協力は、第3即応機動連隊第2普通科中隊（中隊長・澤谷竜也3等陸佐）17人が、教員と小学生約100人に対し、96式装輪装甲車の乗車体験、装備品の展示説明および衛生科隊員による日用品を用いた救急法を実施して防災教育に寄与しました。

装甲車の乗車体験

まず、装甲車に乗車し、周辺の道路を走行、続く装備品展示では人命救助システムII型など防災に係る装備品の機能を紹介。さらに救急法では毛布を活用した簡易担架や救急包帯を使った応急処置を教育して、学生たちに防災に対する関心を持ってもらえるよう実施しました。

各種体験を通して学生たちからは「乗車体験が楽しかった」「いろいろな装備品や応急処置の方法があることを知って勉強になった」など感想とともに隊員に感謝を述べ、本協力は終了しました。

名寄駐屯地では、今後も近隣の防災訓練などに積極的に協力し、防災意識の向上に寄与するとともに住民と交流を深め、地域との連携に努めていきます。

真駒内（北海道）
同期と励ましあい25km行進訓練完歩 札幌自衛隊家族会・新隊員家族などが激励

第21期一般陸曹候補生課程および自衛官候補生課程教育を担任中の第120教育大隊（大隊長・池田2等陸佐）は10月27日、北海道大演習場真駒内射場地区などで「25km行進訓練」を実施しました。

訓練当日、早朝4時に起床した新隊員は月明かりを頼りに個人装備火器や背のうなどの行進準備を完了させ、次の集結地を目指し真駒内駐屯地を出発しました。

一般道を経て進入した演習場内は、未舗装の山道や登り坂が続き、また、橋りょう破壊の状況付与による迂回を強いられ精神的ダメージを受けるなど、経験の浅い新隊員の行く手を阻みましたが、区隊長などの的確な指導や同期との励ましあいにより、懸命に行進を継続しました。

札幌自衛隊家族会による激励

当日15時頃、全員が目的地に到着し、集結地の安全化をもって状況が終了しました。艱難辛苦（かんなんしんく）を乗り越えた新隊員の表情は自信に満ち溢れ、一皮剥けた自衛官らしい姿に成長を遂げていました。

また、行進当日は訓練公開が行われ、札幌自衛隊家族会、隊友会豊平支部および新隊員家族などが激励に駆け付け、ひたむきに25kmを行進訓練に挑むわが子などの雄姿を目の当たりにし、喜びを隠せない様子でした。

本訓練により新隊員家族および協力団体の新隊員教育への理解を深め陸上自衛隊に対する信頼感を醸成することができました。

大宮（埼玉県）
日本拳法社会人選手権大会（団体戦）2連覇 納得のいく結果と強さを求め今日も稽古

拳法訓練隊集合写真

第32普通科連隊拳法訓練隊は10月22日、大阪府吹田市吹田市立武道館で実施された日本拳法社会人選手権大会（団体戦）に参加し、見事、優勝し2連覇の快挙を収めました。

団体戦に出場し優勝に貢献した早川2等陸曹は、今回の大会に挑むにあたり「2連覇がかかる大会でもあり優勝旗をまた大宮駐屯地に持って帰る」を目標に掲げました。

結果に対し「純粋に2連覇できて嬉しいですが、おごらずにそれぞれの反省点を次に生かしていきたい」と勝利を喜びながらも早くも次に向けて稽古を始めています。

拳法訓練隊は今後の抱負として「方面大会や全自大会でいい流れを作れたので、今後も自分たちの強みを試合で出し、納得のいく結果を出していく」と掲げました。また「その姿を見て後輩たちにも何かを感じとってもらい、より一層強いチームを作り、戦える隊員を育成していきたい。今後とも32連隊拳法訓練隊の応援お願いします」と語りました。

拳法訓練隊は、納得のいく結果と強さを求め、後輩育成にも力を入れながら、今日も稽古に励んでいきます。

青野原（兵庫県）
「遊ぼう！冒険の森」を支援 20kgの背のう体験と体験喫食

約20kgの背のう体験

青野原駐屯地（司令・栗田千寿1等陸佐）は9月下旬、県立やしろの森公園（兵庫県加東市）で、北播磨青少年部が主催する「遊ぼう！ぼうけんの森」（延べ約100人参加）を支援しました。

青野原駐屯地は、さまざまな体験ができるブースの中で、背のう体験および喫食体験を実施しました。

背のう体験では、約20kgの背のうを背負った小学生から「すごく重いけど、背負うことができてよかった」「隊員さんは、これを背負って歩いているんですね！すごいです！」と感想がありました。

喫食体験では「カレーめちゃくちゃおいしい！」とおかわりをする生徒が続出しました。

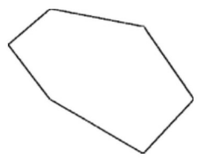
駐屯地は、本支援を通じて、自衛隊に関する理解促進および興味・関心を向上させました。

地獄谷温泉後楽館は自衛官を応援しています

数字　頭の体操⑱

問題

下図の六角形の内角の和はいくらになりますか？



（解答は、6面に）
（出題・解説：antaka）
＊漢字　頭の体操はお休みします。